

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール」～はじめよう渡嘉敷島で自然体験ボランティア～
- 2 ね ら い 当所の特色である美しい「ケラマブルーの海」を活用した魅力ある活動プログラムを通して、ボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動に向けた期待と意欲を高めるとともに、必要な基礎知識や技能を習得させる。
- 3 期 日 令和3年11月13日（土）～11月14日（日） 1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 30名程度
- 6 参加人数 20名
- 7 参加者内訳 高校生18名 大学生1名 社会人1名
- 8 講 師 「青少年教育」
張本 文昭 氏(沖縄県立芸術大学全学教育センター 教授)
「安全管理」
木島 悠太朗 氏(一般社団法人 JAPAN WATER PATROL)

9 実施プログラム

9:0010:0011:3012:0012:3014:0018:0019:0019:1520:0022:00																											
11月13日						乗船 フェリー		乗船 フェリー		開講式 受付		昼食		講義 「青少年教育」		演習「ボランティア活動の技術」				夕食	移動	入浴	講義 「青少年教育施設におけるボランティア活動」		就寝		
														海洋研修				野外炊事研修									
11月14日	7:00		7:30		8:15		11:15					12:00		14:30			14:30		14:50		15:00		16:00				
	起床・準備		朝食		講義・演習 「安全管理」							昼食		講義 「ボランティア活動の意義」			講義 「青少年教育施設の現状と運営」		閉講式		移動		乗船 フェリー				

10 事業の様子

青少年教育



大型カヌー体験



野外炊事



アイスブレイク



先輩ボランティアから学ぶ



安全管理



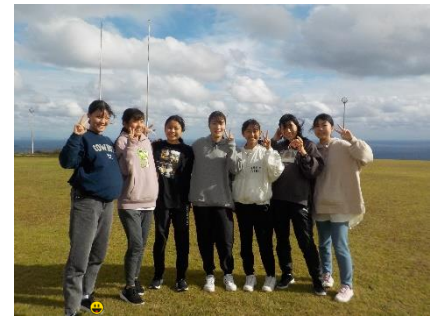
班別協議（ボランティアの意義）



修了書授与



研修を終えて



11 参加者の声（アンケートより）

- ・ 初対面の子達と仲良くなれてよかった。
- ・ 数々のアイスブレイクの種類参考になりました。
- ・ 自然の大切さ、現状について知れてすごく心に残りました。（青少年教育）
- ・ カヤックや大型カヌー、カレー作りなどたくさん体験できてよかった。（ボランティアの技術）
- ・ 実際に活動しているボランティアの方のお話を聞けて、自分もボラとして活動してみたいと思いました。
（青少年教育施設におけるボランティア）
- ・ AEDの使い方や心肺蘇生など、将来の夢へもつながる体験ができてよかったです。（安全管理）
- ・ 年齢別で抱えている問題も異なるから、実際に私もボランティアで、経験を積み重ねたいと思った。
（ボランティアの意義）
- ・ 運営はすごく計画を練って実施されていることがわかった（青少年教育施設の現状と課題）

12 担当者所見

（1） 成果

- ・ コロナによる度重なる延期で参加者が減少した。再度広報活動を行い、定員を超える参加者が集まった。予想外の軽石による事業延期により参加できない参加者が出たが、最終的には参加者20名で事業を開催することができた。
- ・ 例年とは開催時期が異なるため、講義の内容や時間配分に調整を加えた。それにより余裕を持ってプログラムを進めることができた。
- ・ 野外炊事は、経験者が多く、スムーズに進んだ。今回は時間配分を考慮して着火剤を使用した。次年度は火起こし体験から進めることも検討したい。
- ・ 先輩ボランティアの事業参加により、参加者が法人ボランティアの活動や役割のイメージが持ちやすかったように感じた。
- ・ 今回は多くの参加者から意欲的な姿勢を見ることができた。この意欲を今後の事業での活躍につなげていきたい。

（2） 課題

- ・ 軽石の影響による船舶の欠航、延期は、予想できなかったため、当日の朝の電話連絡となった。泊港まで来ていた参加者もいた。予期せぬ理由での延期、中止の際の対応については再度検討が必要。
- ・ 延期により、ボランティアによる自主企画事業が開催できなかった。別の事業のプログラムをボランティアに任せるなどして活動の場所を作りたい。
- ・ 参加者アンケートから野外炊事での食べ残し、残飯の量について指摘があった。SDGsの観点からも改善が必要。
- ・ 今回は、先着順での応募としたため、年齢、男女の偏りが見られた。次年度は募集方法も検討したい。